

1. 研究課題名：

大気中の二次汚染物質に対する発生源寄与推計と  
対策立案に資する規範的モデルの確立



2. 研究代表者氏名及び所属：

茶谷 聡（国立研究開発法人国立環境研究所）

3. 研究実施期間：平成 28～30 年度

4. 研究の趣旨・概要

大気中の微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）と光化学オキシダント（Ox）の濃度は、多くの地域で環境基準を超過しており、有効な濃度低減策が求められている。

本研究では、大気中での複雑な光化学反応を経て二次的に生成される PM<sub>2.5</sub> と Ox について、その物理化学的挙動を表現できる数値モデルの検証・改良・実行に必要なデータを揃えた上で、国内のモデル研究者を一堂に集め、複数のモデル間で相互比較を行うことにより、規範的なモデルを確立させる。

それにより、PM<sub>2.5</sub> と Ox の有効な濃度低減策の立案に不可欠な、高濃度大気汚染のメカニズムの解明と、信頼性の高い発生源寄与割合の推計に貢献する。

5. 研究項目及び実施体制

- ①モデルの推計精度向上と対策効果の評価に資する排出インベントリの開発  
（国立環境研究所）
- ②モデル間相互比較に基づく発生源寄与割合の総合的・統合的評価手法の開発  
（神戸大学）
- ③PM<sub>2.5</sub> および関連ガス成分の地表面フラックスの精密測定とモデル化  
（電力中央研究所）
- ④Ox 高濃度事象の立体構造把握及びモデル不確実性評価を対象とした観測研究  
（明星大学）

## 6. 研究のイメージ

